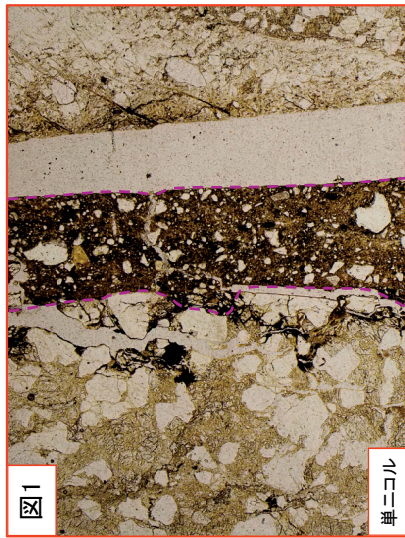
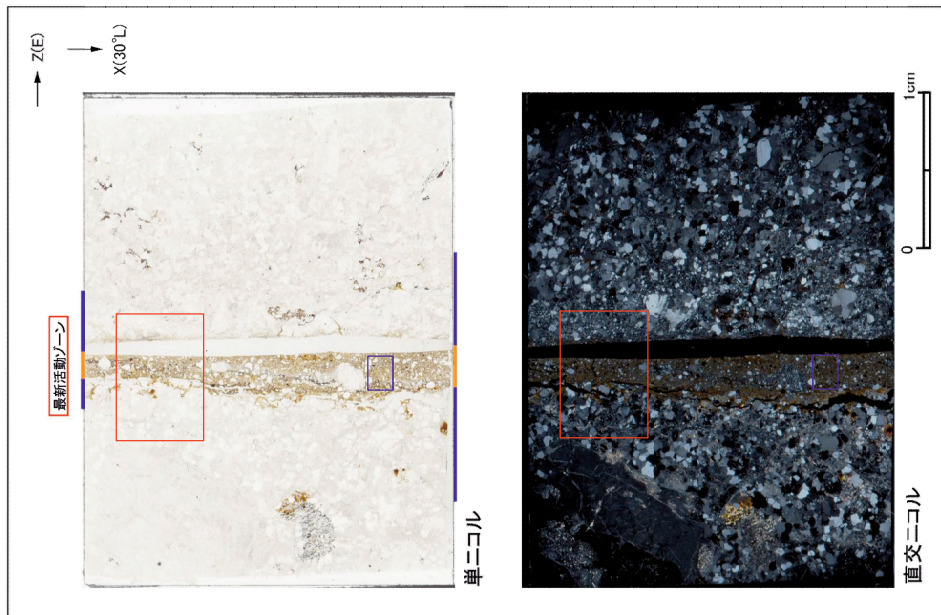
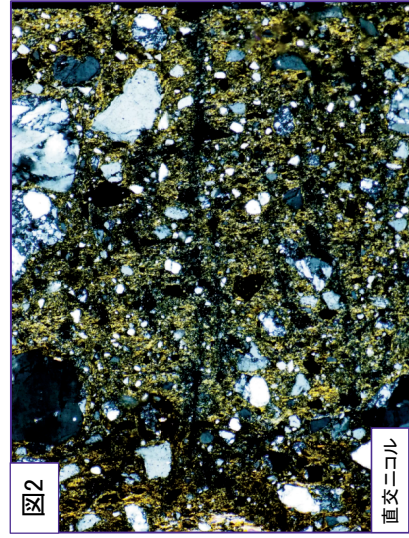
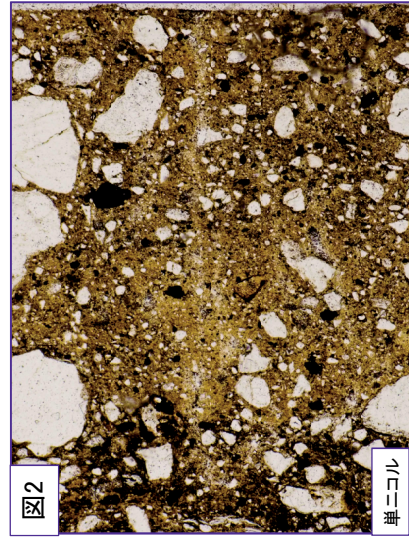
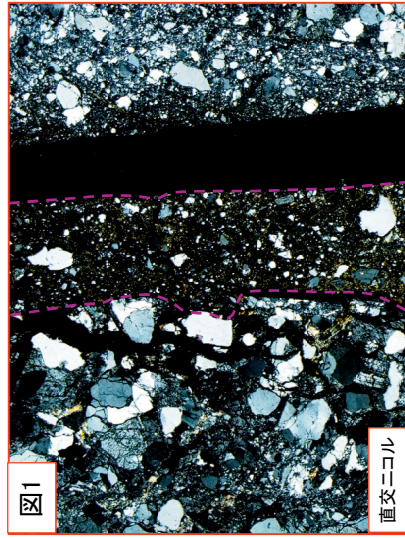


- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
  - 岩片は少ない。(図2)
  - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す



第7.4.4.275図 (4) 破碎部性状 H27-B-1 深度78.72~78.87m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度78.87m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部の軟質な細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.2	無

\*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。



・深度85.38～85.41mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・一方、深度85.41mの「粘土状部」と記載の箇所については、幅2mmの細粒部が挟在しており、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。

### ボーリング柱状図

●85.38～85.41m：破碎部  
 85.38～85.41m：粘土混じり岩片状部 (Hj)

上端45～50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47°で直線的に連続。軟質で、径2～3mm石英粒と径3～5mm粘土化岩片と基質の砂状～粘土状部からなる。にぶい黄橙色を呈する。幅20～25mm。上端の割れ目沿いにマンガン銹染受け黒褐色化する。

85.41m：粘土状部 (Hc-1)  
 上端47°，下端47°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をこくわずか(5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。

### コア写真



凡例  
 断層ガウジ  
 破碎部範囲※  
 ※: 写真上は白色で記載

深度85.41mの幅2mmの細粒部



細粒部が網目状に分布する

第7.4.4.276図 (1) 破碎部性状 H27-B-1 深度85.38～85.41m (肉眼観察による断層岩区分)

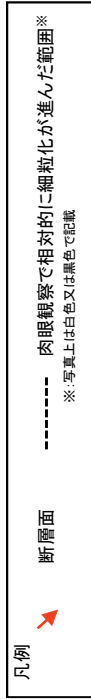
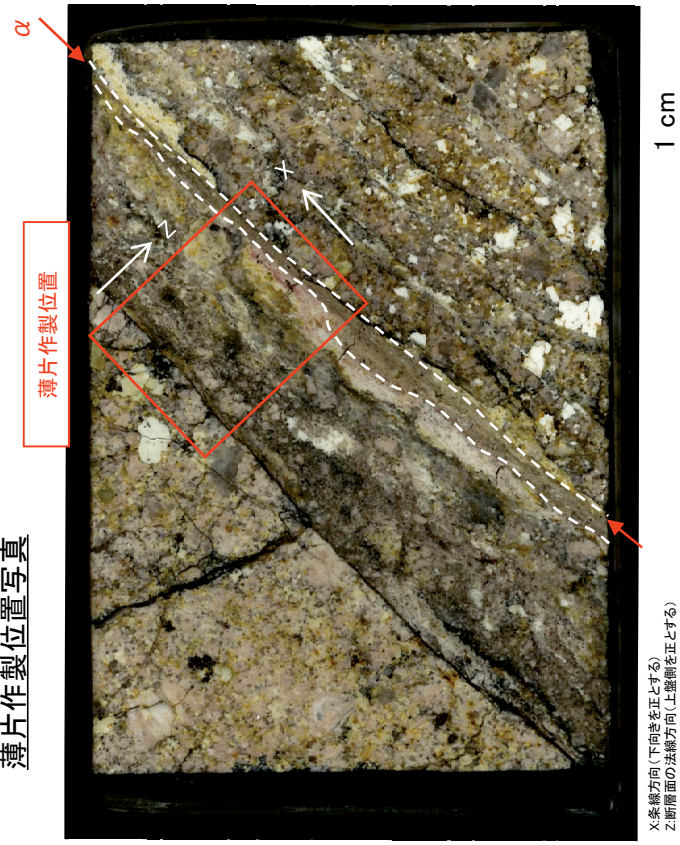
・薄片は断層面 $\alpha$ 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

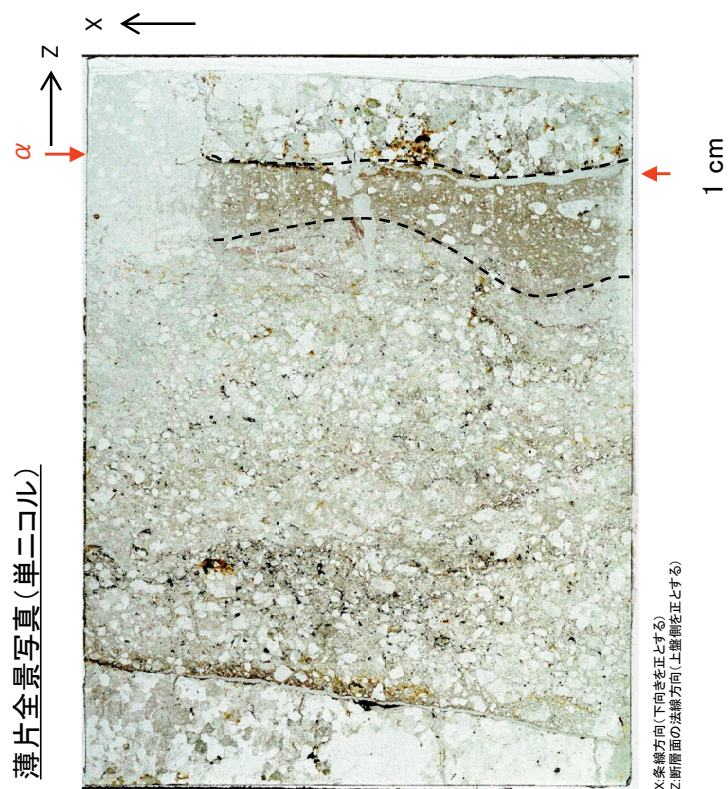
※断層面 $\alpha$ は最新活動面



薄片作製位置写真

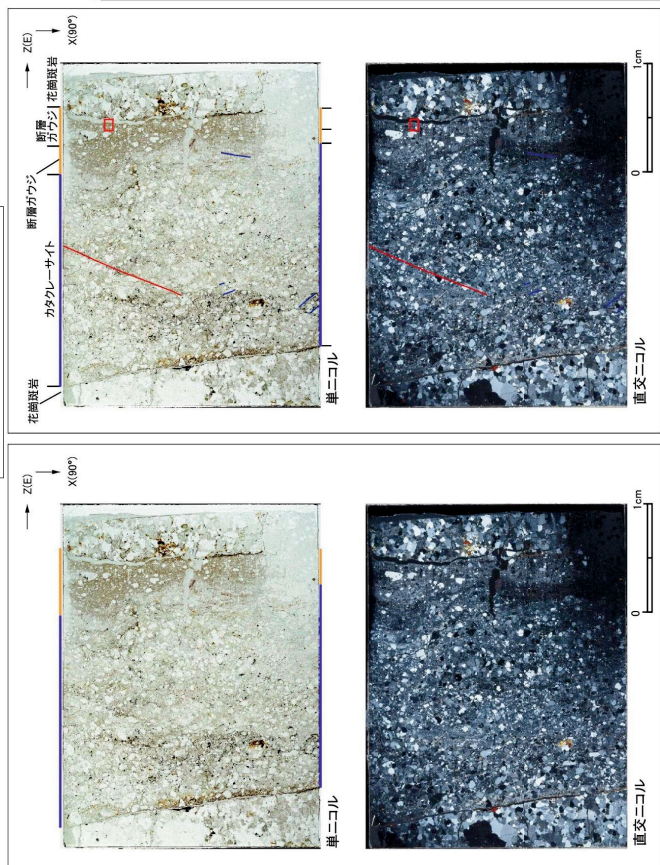
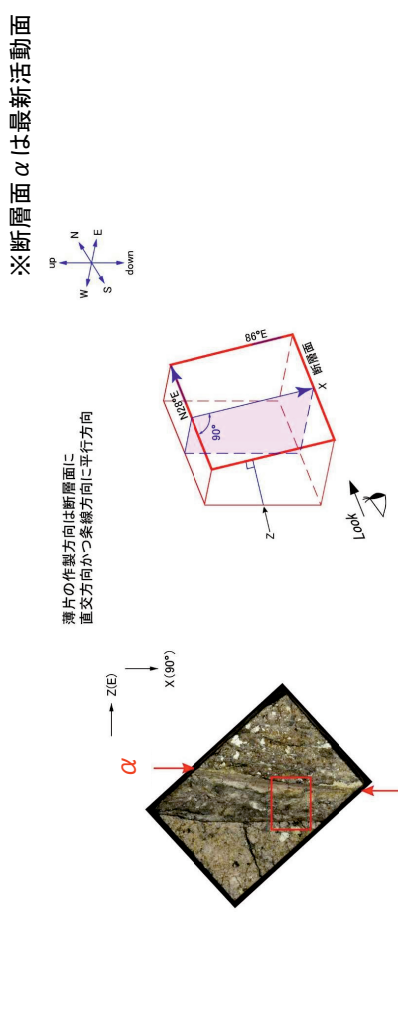
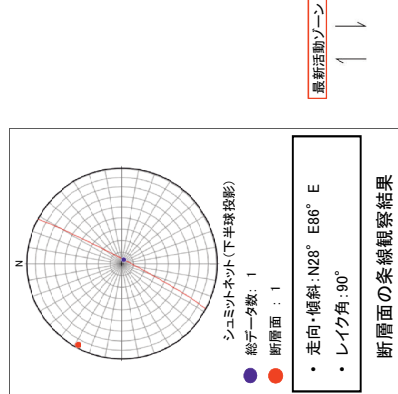


薄片全景写真(単ニコル)





- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



第7.4.4.276図 (3) 破碎部性状 H27-B-1 深度85.38~85.41m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))